



桐

K I R I

目黒学院高等学校同窓会事務局
〒153-8631 東京都目黒区中目黒1-1-50
電話 03-3711-6556
編集発行人 会長 市川 康 憲
URL <https://www.meguro.ac.jp/Kiri/>

創刊50周年記念号



令和元年度会務報告



同窓会会長
いち かわ やす のり
市 川 康 憲
(昭和42年3月卒)

同窓生の皆さん、本年は目黒学院高等学校創立80周年という佳節を迎えました。大変におめでとうございます。これまで本学を支えてこられた教職員の皆様、代々の理事長・校長先生におかれましては、心からのお祝いを申

上げます。同窓会といたしましても、創設より本年まで継続して同窓会活動を続けることができました事も、本校創立以来、本校の皆様初め同窓生のお力によるものと重ねて感謝を申し上げます。

一方で、残念ながら本年に入り新型コロナウイルスが中国武漢から発生し、時を待たずに一瞬にして全世界に拡散してしまいました。我が国も、一旦は収束の兆しが見えたものの、7月半ば頃から感染者数が首都圏を中心に増え始め、国や地方自治体ともに頭を痛めている現状です。

本年開催予定の「東京オリンピック」が明年の開催となり、芸術鑑賞もスポーツ観戦、加えて夏の甲子園球場で例年開催されてきた全国高等学校野球選手権大会までもが中止となりました。イベント開催においても、無観

客開催から決められた定員で開催出来るようになりましたが、まだまだ油断はできません。

こうした現状から、私ども同窓会においても役員会などの開催を控えることになり、検討すべき議題を話し合うことも出来ておりません。なかでも、同窓会広報誌「桐」の編集打ち合わせが出来ず、今号は3か月遅れの発行となりました。お詫びを申し上げますとともに、ご理解の程を宜しくお願い申し上げます。

願わくば、同窓会員お一人おひとりが健康で尚且つ、生活の基盤も壊されることの無いことを心から念願しております。

感染症対策の専門家の皆さんは、今回の新型コロナウイルスについて非常に厄介な特性を持っていると訴えています。それは、感染しても人によっては症状が出ない、という特殊性にあるといわれています。免疫力の弱い方々の命を奪いますが、感染しても症状が出ない人々は通常の生活をしており、新たな感染源となって広めてしまう危険性を指摘しています。その意味で、マスクと手洗淨は欠かせません。油断することなくお過ごしいただきたいと思えます。

思えば、現代社会は地球上に張り巡らされたネット環境による情報の共有化、航空機の発達による世界各国への移動が可能となるなど、「情報・人・もの・かね」が容易に動かせる時代になりました。こうしたボーダレスの流れに乗りながら、世界の人たちが驚くような良品質の物作りを成し遂げた日本。一時期は世界第2位の経済大国といわれるまでになりました。その先導役を果たしてきたものは紛れもなく「技術力」だったと思えます。インバウンド（外国人旅行者）による経済再生も必要だとは思いますが、世界に確たる技術力を今一度鍛える時ではないかと考えています。

本校創立時の「東京機械工科学校」そして「目黒工業高校」の設立は、間違いなく技術立国日本の人材を育成してきました。多くの先輩方が、大手企業の技術部門で活躍されていた事実を見ても明らかです。

そして、現在の目黒学院中学・高等学校は、時代が要請する国際人を育成すべく大きく発展いたしました。母校発展のために惜しみないご努力をされてこられました関口隆司理事長・校長先生、そして教職員の皆様に心より敬意を表します。

同窓生の皆様におかれましては、校訓で示されている「明朗・勤勉・礼節」を思い起こしながら、健康第一でご活躍され、ご発展されますことが創立80周年を祝う事に通じると思えます。次の10年先であります創立90周年に向けて、さらなる母校発展のためのご協力を心よりお願い申し上げます。

〈報告〉

令和2年1月25日、前校長の須藤亘啓先生がお亡くなりになりました。享年89歳でした。

須藤先生とは、毎年の本校卒業式と入学式の折、事務所の応接で式開始までの短時間でしたが、関口理事長を前にして須藤先生の隣に同席させていただいておりました。いつお会いしても、変わる事の無い温かな笑顔が今でも思い出されます。前回（平成30年）の「同窓会総会・懇親会」の折には、強烈な台風が東京を直撃するという荒れた天候でしたが、須藤先生も激励に駆けつけてくださいました。心からの感謝とご冥福をお祈りいたします。

母校の卒業式は3月10日、コロナウイルスの動向に配慮して、卒業生と教職員のみで行われました。入学式は、当初4月5日を予定しておりましたが、中止となりました。同窓会からは、卒業生お一人おひとりに「電波時計ダブルアラーム・アクア」を卒業記念品として贈らせていただきました。今回の第72回卒業証書授与式が終了し、新たに192名が会員となられ、会員総数では32,322名となりました。

〈お願い〉

同窓生の皆様にお願いがございます。1点目は、同窓会の担い手が少なく、同窓会活動の運営が厳しい状況にあります。年間5～6回程度の役員会や会報編集の打ち合わせがあります。会場は母校会議室で行いますので、皆様のご協力をお願い致します。特に、生徒会活動を経験された皆様の積極的なご参加をお待ちいたしております。

2点目は、クラブ活動や同好会の活性化を図るため、何らかの支援策が必要であると考えております。また本年度は経済活動の停滞が予想され、在校生にも影響が出る可能性が考えられます。そこで、先輩の皆様からの賛助会費納入をお願い申し上げます。

3点目は、同窓生で、大学や社会の第一線で活躍されている方の推薦をお願いいたします。出来れば、同窓会のホームページからメールにて情報の提供をいただければ幸いです。ご本人の許可を頂いたうえで、可能であれば会報でご紹介させて頂きたいと考えております。

終わりに、なお一層の同窓会活動へのご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、会員各位、在校生ならびに理事長・校長先生を初め、教職員の皆様方の益々のご健康と、母校の発展をお祈り申し上げ、ご挨拶並びに会務報告といたします。

挨拶と学校の動向



理事長・校長

せき ぐち たか し
関 口 隆 司

男女共学9年目となりました平成31年度（令和元年度）は、おかげさまで大過なくほぼすべての行事をとり行うことができました。創立80周年を迎える本年、現下は新型コロナウイルス感染症の拡大で様々な活動に制限が加えられておりますが、同窓生の皆様の益々のご健勝を心から祈念しております。

本年4月の新入生は、中学生9名、高校生307名（一貫コース内部進学生を含む）となりました。中学生の新入生のうち女子は1名ですが、高校生の新入生のうち女子は160名となり、高校1年生は初めて女子生徒数が男子を上回ることとなりました。卒業生の皆様におかれましては、何卒引き続き「新生・目黒学院」へのご支援とご協力を賜りたいと念願しております。

以下簡単ですが学園概況のご報告を申し上げます。

1. 学校行事等

前述の通り、平成31年度（令和元年度）の目黒学院では、ほぼすべての行事を予定通り実施することができました。一貫コースの行事であるアジア研修旅行（アジアセミナーツアー）は、高校1年生と2年生の2学年合同で実施いたしました。高入生のための陸上記録会は昨年度から「体育祭」となり、駒沢第1球技場で2日間実施する予定でしたが、初日は実施できましたが翌日は残念ながら雨天で中止せざるを得ませんでした。一方梧林祭は2日間天候に恵まれ、昨年にも増して生徒は活発に活動しておりました。例年通り中目黒駅前商店街主催の「鳴子よさこい祭り」にも参加して好評を得、駒沢の体育館を借用して球技大会も実施することができました。また、創立記念日の10月9日には、相互交流の協定を締結している福島県飯舘村の菅野村長にご来校賜り、生徒・教職員に対して講演をしていただきました。

7月13日に、昨年に引き続き「オープンキャンパス」を実施いたしました。中学校・高等学校の様子を少しでも受験予定者に理解していただくため、模擬授業や様々なアトラクションを教職員と生徒が協力して開催し、好評を得ました。

2. 教職員の異動

専任教諭の山口正幸先生、白木恵以子先生が定年退職されました。山口・白木両先生は引き続き専任講師として教鞭をおとりいただいております。また、常勤講師の遠山裕美子先生を専任教諭にお迎えし、非常勤講師の長谷川翔平先生（保健体育）を常勤講師としてお迎えしました。

現在の専任教員数は67名（専任講師・常勤講師を含む）、専任職員数は10名（カウンセラーを含む）となっております。

3. 部活動の状況

関東大会以上に出場したのは、ラグビーフットボール部、空手道部、ゴルフ部でした。ラグビー部は惜しくも全国大会東京都予選の準決勝で敗退しました。空手道部は桃太郎杯全国高等学校空手道錬成大会及び内閣総理大臣杯全国空手道選手権大会に男女とも出場しました。また、ゴルフの田中雄貴君が全国大会に出場しました。

4. 大学進学状況

本校のホームページに大学進学実績を掲載しております。今年は東京工業大学に2名の合格者を出したほか、早慶上理、GMARCHにも昨年と比べ多くの合格者を出すことができました。生徒の大半が大学進学希望であることは変わらず、志望進路実現のために教職員一同なお一層真剣に取り組んでいく所存です。勉学であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の生徒を今後も育てていきたいと考えております。

5. その他

平成31年度（令和元年度）は、経済的に就学が困難な生徒の保護者に対して学費を免除する規定に基づき、6名に対して授業料の全額免除を行いました。規程に基づき授業料を免除した場合には、同窓会からその一部をご援助いただく予定であります。

本年3月にトンガからの生徒を1名受け入れております。現在トンガ人の生徒は合計4名で、高校3年生が2名、2年生が1名、1年生が1名となっております。彼らは全員体育コース（令和2年度からスポーツサイエンスコースに改称）に進学し、ラグビーフットボール部に所属しております。2月に行われた新人戦では國學院久我山高校に大差で勝って優勝しており、今年こそ全国大会出場を切に願うものであります。

◆「桐」50年の歩み◆



相談役

あ だち とみ お
安 達 富 夫

(昭和43年3月卒業)

昭和46（1971）年3月1日に本会会報「桐」の第1号が発刊されました。以来50年、「桐」は本誌で第50号を迎えることが出来ました。

1年に1回発行の機関紙ですが、これまで1度も欠けることなく50年間続けてこられたことは多くの皆様のご支援、ご協力の賜と感謝いたしております。

ところで、本誌が創刊される10年以上前の昭和34（1959）年に、同窓会誌「桐友1959秋」が創刊されました。A5版の右とじ込みの小冊子で、表紙は版画の樹木。表紙を開くと、学園今昔と題して昭和22年3月撮影の校舎、昭和31年一部改築の航空写真、昭和34年4階建ての校舎写真、校門のスナップ、戦時中の教練寸景、教職員の記念写真、関口敏郎先生（当時校長）と宮田嘉寿先生の顔写真、同窓会の総会スナップ、クラス会等の写真が賑やかに掲載されています。

本文は69頁のタイプ活字組込で、当時としては立派な機関紙です。巻頭言、特別寄稿、羅針盤、近況、追憶、文芸、総会報告、消息、雑報（同窓生の尋ね人欄）、委員名簿、決算、予算案等、実に豊富な内容でありました。特別寄稿は関口敏郎先生の「光陰既に19年」—国防色から四階建てへ—（本誌第9号の6頁にも掲載）と題してです。

「桐友」は昭和36（1961）年に第2号が発刊されていますが、残念ながらそれ以降は途絶した模様です。

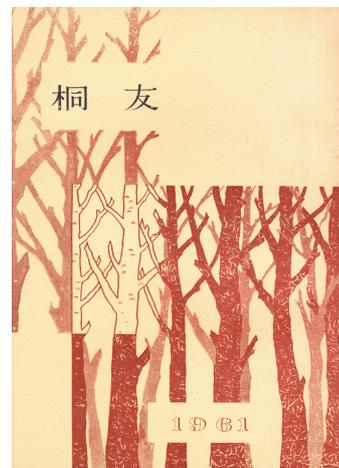
それでは、以下に本誌50年の歩みを辿ってみたいと思います。

1. 創刊号について

創刊号の1頁「発刊によせて」で、同窓会会長の故久我茂三郎氏は、「昨昭和45年に目黒高校の創立30周年を迎えました。私達はこれを記念して同窓会だよりの創刊号

を発行することになりました………」とあり、本誌発刊のきっかけは母校創立30周年であったことがわかります。

創刊号を見てみますと、B5版4頁、青色の一色刷りで、1頁は当時の校舎写真と関口敏郎校長と久我同窓会会長のご挨拶文、2頁、3頁では母校30年の歩み、ラグビー部の初の全国大会優勝の模様、前年開催の同窓会総会・懇親会の開催模様が写真とともに掲載されています。4頁では、恩師貴田先生を囲み同窓会役員との座談会、当時の本会役員氏名と編集後記でありました。当時の役員は8名でしたが、すでにその半数の方が鬼籍に入られております。（6頁最後を参照）



2. 発行時期

創刊号は3月1日発行でしたが、第2号から第7号は5月から6月に発行、第8号から第18号は4月発行、平成から令和の時代では第19号以降、原則毎年6月に発行されてきました。

本年は新型コロナウイルス感染拡大にともない4月7日に政府の緊急事態宣言が発令、外出自粛等により、本会の役員会、編集会議が開催出来ず、9月の発行となってしまいました。

3. 誌面サイズとページ数

創刊当初の本誌は、B5版の4頁でスタートしました。そして、昭和49年5月発行の第4号から8頁となりました。昭和46年当時の本会の財政は、決して潤沢ではありませんでした。そこで、学校側のご理解を得て、昭和48年からそれまで月額50円であった同窓会費を100円に値上げし、また、同窓会費だけに頼ることなく本誌第4号から会員篤志による広告を掲載し、財政強化の一助としました。（参考として現在の同窓会費は、平成17（2005）年から月額300円です。）そこで、同窓会費の増額を機会に、内容の充実を図り8頁版としたのです。その後、時代の推移に合わせ平成9年6月発行の第27号より、B5版からA4版8頁に充実し、文字ポイントも若干大きくして現在に至っております。そして、平成27年6月発行の第45号本会創立70周年記念号は12頁、平成30年6月発行の第48号、昨年発行の第49号と今号は12頁で発行しております。

4. 印刷色

創刊号から昭和51年6月発行の第6号までは、青色または緑色の一色刷りでした。その後、第7号から平成14年6月発行の第32号までは黒の一色刷り、第33号から第39号までの7年間は紙色をクリーム色に変更し、印刷は紺色の一色刷りです。

そして、平成22年6月発行の第40号から、紙色を白に戻し8頁中、4頁をカラー印刷に充実しました。その後、第45号、第48号、第49号と今回の第50号は12頁フルカラー印刷です。

5. 会報のタイトル

母校では、これまで80年の歴史の中で、「桐」または「梧」が良く使われてきました。

これは、母校の創立者「関口安五郎先生」の家紋が五三の桐であったことによります。「梧」はアオギリのことであり、「桐」とはまったく異なる種です。しかし、中国では古くから両方に「桐」の字を用い、アオギリを「青桐」、キリを「白桐」と呼び分けています。

「桐紋」について、日本には白桐をもとに意匠化された紋章がいくつかあります。それらを総称して桐紋もしくは桐花紋といいます。中でも公的機関のシンボルとして多用されている五七の桐と一般的に家紋として広まっている五三の桐と呼ばれる紋が代表的であり十大家紋に挙げられるほど多く見られます。(注)



五七桐花紋

五三の桐

現在の学校新聞は「梧林」で、母校の文化祭の名称は「梧林祭」です。

母校で「桐」がいつ「梧」になったか正確なことはわからないようですが、同窓会では、冒頭に記載した同窓会誌「桐友」をふくめ、現在に至るまで会報のタイトルに「桐」を使用してきました。

本誌のタイトルは、創刊号から第8号までが図①の通りです。中央に「桐」の文字が白抜きで印刷され、「桐」の文字の左右に2枚づつ4枚の「葉」を配置し、左上に校章を現わす五三の桐がデザインされています。



その後、第9号(図②)から「桐」の文字が白抜きから黒字に変わり、第25号、第26号(図③)は左上にデザインされた五三の桐のロゴが変わりました。そして、第27号からデザインを大幅に変更し、現在(図④)に至っております。現在使用している本誌のタイトルは、B5版からA4版に変更するにあたって、デザインの変更が検討され、同窓会の市川現会長のご尽力によって、一新されました。

(注) ウィキペディアから引用



6. 広告掲載

本誌の広告掲載について、「3.誌面サイズとページ数」でも若干触れましたが、本誌創刊当時の本会の財政状況は、決して健全な状況ではありませんでした。

そこで、先人たちの知恵と努力で、本誌への広告掲載を行い、本誌発行費用の一助としてきました。広告掲載のスタートは、昭和49年5月発行の第4号からで、当初その数は6社で1頁分に相当するものでした。以後、現在に至るまで毎号、同窓生ゆかりの何社かの広告を掲載して

きており、最も多かった時は、本誌8頁中で1号頁、17社と多大なご協力をいただいた時もありました。

7. 掲載内容

母校では本年創立80周年を迎えますが、本誌の50年間で振り返り当時の母校理事長、校長先生や恩師の先生方の寄稿、同窓会会長の挨拶等を改めて読み返しますと、母校や本会の歩みがよくわかります。

会報では、同窓会の活動内容、母校の近況や動向、同窓生の紹介と近況、恩師のご紹介、在校生のクラブ活動紹介、本会総会・懇親会のご案内、クラス会開催報告等を掲載してきました。

とりわけ、昭和55年4月発行の第10号掲載の母校第4代小山教孝校長から現在まで、歴代の校長先生が母校の近況や動向を詳細に寄稿して下さり、これらは母校発展の記録にもなっております。

また、会報に掲載された同窓会会長の会務報告や決算・予算書（第21号から掲載）は、本会活動の記録として貴重な資料となっております。

いくつかの例をあげますと、本会創立から40回を超えて毎年開催してきた同窓会総会・懇親会は、財政上の理由から平成2年（第20号）より隔年開催とし、さらに平成14年（第32号）から3年ごとの開催に変更。また、本会財政改善に向け平成元年（第19号）から賛助会費（卒業後22年経過から5,000円）を導入し、平成14年（第32号）から一口1,000円とし、全会員を対象としました。そして、平成19年（第38号）から在校生への奨学金支出がスタートし、現在に至っております。

創刊から現在までの本誌で特筆すべき内容は、関口敏郎前理事長が教育を通じた国際交流で51か国を訪れた際、各国で出会った女性を紹介した「世界美女図」のタイトルの寄稿文が、S.55.4.21発行の第10号から平成10年6月発行の第28号まで約20年18回にわたって連載されました。そして、平成11年6月発行の第29号からは新連載で「歴史の名所を訪ねて」がスタートし、第1回はドイツ南部のバイエルン州にあるノイシュヴァンシュタイン城でしたが、平成13年4月17日に関口敏郎前理事長がご逝去されたため、残念ながら私たちは第2回目を目にする事が叶いませんでした。

また、須藤亘啓前校長におかれては、学校長を退かれた後、平成15年（第33号）から平成17年（第35号）に「夏が来れば、思い出す」を寄稿していただきました。目黒高校山岳部で経験された北アルプス、南アルプス縦走の体験紀行と水泳を覚えた経緯から、外房での遠泳体験、三浦半島津久井浜での目黒高校臨海学校等の経験が記載されています。須藤先生はこの他にも、平成27年の本会創立70周年記念号（第45号）に「目黒高校・目黒学院高

校の思い出」と題して、長文の寄稿をいただいております。

8. 会員への配布方法

創刊からしばらくの間は、本会役員の総務担当が、会員約12,000名の住所を封筒に手書きし、本誌を同封して発送してました。

しかし、第6号は郵便料金改正に伴い財政上の理由から、全会員への送付は行われず、総会開催時等に配布しました。その後、第7号以降から現在まで、再び全会員に郵送配布されることになりました。この間には、母校のOA化に伴い昭和63年（第19号）に全会員約22,000名（令和2年3月末の会員数は約32,300名）の氏名、住所等を母校のコンピュータにデータ化し、それまでの住所の手書きからタックシール利用に改善され、さらに平成6年からはコミナミ印刷（株）に本誌の印刷、発送作業等を委託し、現在に至っております。

9. バックナンバー

本会ホームページの会報の頁で、平成13年5月発行の第31号から現在まで発行された20年分の会報をご覧ください。いただくことが出来ます。

以上、本誌50年の歩みを記載させていただきましたが、母校が発行している学校新聞「梧林」と比較すると、紙面の大きさや頁数、毎年の発行回数とも、とても及びません。

それでも、本誌がこの50年間継続発刊出来たことは、ひとえに歴代の理事長、校長先生をはじめ母校教職員の皆様、会員の皆様の多大なるご支援の賜と深く感謝申し上げます。また、四半世紀以上にわたって本会の業務に携わっていただいておりますコミナミ印刷様にも厚く御礼を申し上げます。

今後も本会役員一同、本誌のますますの紙面の充実とさらなる継続を目指して、努力してまいります。



会員紹介

新しい時代!“希望と勇気”を音楽の力で



かわいまさる
河合 優
(平成10年3月卒)

トランペット奏者として、いろいろな場所で演奏やレッスンに喜びを広げる、河合 優（カワイ マサル）さん。

本校の吹奏楽部常任指揮者であり、昨夏には「東京都吹奏楽コンクール」で同部を見事に“銀賞”へ導きました。

“吹奏楽の若き指導者”として活躍する河合さんに、等身大の思いを語ってもらいました。

〈プロフィール〉

1979年、東京都世田谷区生まれ。

東京ミュージック&メディアアーツ尚美（当時）卒業。

目黒学院卒業生でプロのトランペット奏者、トランペット講師として活躍中。「吹奏楽の巨匠」を目指す。

○幼い頃から歌や音楽がすごく好きなのですね。

良く覚えているのですが、幼稚園の頃から学芸会の劇で必ず歌を歌っていたんです。母親が、いつも料理を作りながら日本の童謡等を歌っていたことから、自然と音楽や歌が好きになったのだと思います。

当時は、楽譜は読めなく、小学校4年生の時に音符は読めないけど、どうしても音楽をやりたい！と「音符が読めなくても合唱はできるのでは」と思い、合唱クラブに入団して小学校卒業まで毎週土曜日に歌を教えてもらいました。

○トランペットとの出会いを教えてください。

中学校に入学したら、管楽器を吹いてみたい！

まだ管楽器を知らないし、楽譜の読み方もあいまいなままでしたが、音楽教科書の楽器紹介のイラストにあったホルンの絵にあこがれを抱き、絶対吹奏楽部でホルンを！と決めていました。

仮入部に行きましたら、あこがれの楽器と対面。キラキラした見た目に嬉しくて仕方がなかったのを今でも覚えています。いざ吹いてみるとなんとなく音階が吹けてしまい、先輩から、じゃあこの曲を練習して！といきなり渡された楽譜は、吹奏楽では定番の行進曲。

しかし、目立つメロディー（主旋律）らしき音符がほとんどなく、伴奏のような音ばかり。先入観から、これ

は自分が思い描いていた楽器と違う！と、当時の私はつまらなく思ってしまったんですね。

顧問の先生に時間をかけてお願いをして、ついに花形のトランペットを担当する事ができました。

トランペットをやり始めたらなんだかとてもハマってしまい、両親には「楽器ばかり吹いていないで、勉強をなさい！」と、すごく怒られていました。（笑）

しかし一方で「好きなことはやればいいんじゃない」と、背中を押してあたたかく見守ってくれてもいました。

○中学生での思い出は。

毎年夏に、近隣の中学校の吹奏楽部を集めた、警視庁音楽隊の楽器別の講習会がありました。各楽器に分かれて、音楽隊の方がレッスンをしてくださるんです。

講習会の最後に、各楽器から代表者を選抜して、モデルバンドを組んでの発表の機会がありました。

私もメンバーの一人に選ばれ「僕、楽譜はあいまいでしっかり読めません」と言っているのに教えてくださった隊員さんから「いや、僕が選んだんだから君はでなさい。」と言われ、泣きそうな思い出で記憶があります。後に自分を選んでいただいたことが、自信と励みになり、すごく良い経験、思い出になりました。また、教えてくださった警視庁音楽隊の方に憧れ、こんな仕事があるんだ！とすごくカッコ良く見えて、“将来、こういう風になりたい”と、強いあこがれを抱きました。

○中学生で努力を重ね、本校に推薦入学するまでに上達したのですね。

中学校の顧問の先生が、私の音楽への強い思いを知って吹奏楽推薦での入学校を紹介してくださったのが、本校でした。

当時は、男子校ですから、すごく厳しく（笑）。先輩の言うことは絶対！挨拶など、体育会系のような感じでしたが、先輩たちにかわいがっていただき楽しく過ごさせて頂きました。

コーチの先生は、プロのサクソ奏者の方でとても楽しいレッスンでしたが、専門的な知識や技術を教えていただきました。

○その後、河合先生の心の中に、音楽を仕事としてやっていこうとの思いが芽生えたのですか？

中学生の頃から、音楽を仕事にしたい！楽器の先生になりたい！楽器を演奏する仕事に就きたい！とずっと思っていました。父には「手に職があるのはいいよ」と、小さい時から言われていました。

テレビとかで楽器を見ると、キラキラした楽器に魅かれ、心が躍るような気持ちになり、自分にはこれしかない！と、

この道に進むことを決めました。

進学したのは、音楽専門学校東京ミュージック&メディアアーツ尚美（当時）に進みました。吹奏楽専門コースと演奏表現学科で、4年間、吹奏楽指導法とトランペットを専門的に学びました。

○卒業後、プロとしての不安はなかったんですか？

最初は、仕事をする機会が少なく、とても大変でしたね。

（笑）自ら営業に回り、100か所程の学校に仕事依頼の手紙をだしたりもしました。音楽を仕事に！絶対に夢を叶えるんだ！と、原動力はそこでしたね。

現在は、公立小学校から高等学校まで、プラスバンド指導や吹奏楽指導をしています。東京都の部活動指導員の役職も務めさせて頂きつつ、ヤマハ音楽教室スガナミ楽器トランペット講師、個人生徒さんのレッスン、港区の地域サークルにてトランペットのレッスン、ハンドベルのレッスンと様々させて頂いております。

また、フリー奏者として演奏の他、自身主宰の室内楽アンサンブルで、様々なイベント出演、演奏もさせて頂いています。

○各所でご活躍されているんですね。何かエピソードを教えてください。

“Trio Tierra” との名称で、サクソ奏者とピアニスト、私の3人でグループを作っています。このグループでは、イベント演奏やLive演奏をメインに活動していますが、高齢施設にお伺いさせて頂く機会もあり、とてもびっくりすることがあるんです。

例えば、演奏を聞かれると、皆さん急に“饒舌”になるんですね。心に蘇った懐かしい思い出を語られます。家族のこと、ご主人・奥様のことや、若い頃のこと。音楽の力は本当に凄いなと思います。皆さんが元気になれる様子を見て、この仕事をさせて頂ける事に大変幸せを感じています。福祉施設、デイケアセンター、養護施設、保育園、幼稚園等の教育機関へもお伺いさせて頂いています。クラシック、アニメソング、懐メロ、スタンダードジャズまでジャンル問わず演奏をさせて頂いています。私たちの音楽をたくさんの方々に届けることが出来たらと思っています。

是非、ご依頼お待ちしておりますのでインターネットで私の名前を検索してみてください。

○河合さんは、本校の吹奏部の常勤指揮者としても、指導して頂いていますね。

昨年は、「東京都吹奏楽コンクール」で銀賞（20名以下の編成）を頂くことができました。

10人前後の少ない部員でしたが、春に、経験者から初

心者まで新入生がたくさん入部してくれました。

高校から楽器を始める初心者さんも多く、まずは実力のある他校に負けないよう、ダイナミックな音を奏でるための基礎練習を中心に取り組みました。

また、楽器の演奏以前に“曲のイメージ”を全員で共有するため、部員で話し合ってもらい、曲を題材にした物語を作ってもらったり、一人一人が思い描く曲のイメージを、絵で表現してもらったりしました。曲に部員皆のイメージや思いを乗せることで、目黒学院にしか出せないサウンド、音楽を表現することができました。皆が指導通りに頑張ってくれて、とても嬉しく思っています。

○そのような努力の結果“銀賞”につながったのですね。素晴らしいですね、今の近況を教えてください。

本校の部員は、女子が多くて、とてもにぎやかに練習しています。皆、演奏に対して解らないことを解らないままにしません。解らないことがあったら、必ず、聞きに来ますね。

また、私が伝えたことは、次のレッスンまでにマスターしようとする皆の意志や、頑張りが伝わってきます。すごいですよ。

○吹奏楽部の皆さんは、真面目に練習し、力をつけられているんですね。

とてもうれしい限りです。さらに目黒学院サウンドを磨いていけるよう部員たちと頑張っていきます。

○新型コロナウイルスの流行・影響が続いていますが、音楽業界はいかがですか？

新型コロナウイルスの影響を受け、自粛要請期間中は、イベント中止や学校休校、音楽教室休校から、コンサートやレッスンも出来ない日々が続いていましたね。

緩和後は、徐々に状況が戻りつつありますが、イベント縮小や延期など、まだまだ影響は残りそうです。

コロナウィルスに負けずに“音楽家も頑張っている”というのがひろく広まり、この状況を社会全体で乗り越えていけたらと思いますね。

○今後の抱負を聞かせてください。

まずは、「東京都吹奏楽コンクール」でゴールド“金賞”が、目標ですね。吹奏楽指導者の巨匠と言われる先生方を目標に精進していきたいです。

「吹奏楽といえば河合先生だよ」と、どこの学校さんでも言っていたような先生になりたいですね。

吹奏楽、楽器演奏を通して“勇気と希望”の感動を広げていきたい！

生徒たちみんなと頑張っていきます！

○大変ありがとうございました。

◆生涯の友◆



はやし けん いち
林 賢 一
(昭和41年 3月卒)

昭和36年4月、父の仕事の関係で現在のいわき市から川崎市へ、一年後大田区羽田へと転居いたしました。学校は区立出雲中学校でした。

転入当日の放課後、街の書店で「おい 林」と声をかけられ振り向くと同年輩の中学生でした。転入初日で自分には知人などおらず思案していると「俺は同じ組の安田だよ 林だろう」と。私はクラスメイトの顔は知らないがクラスメイト安田憲二君は私を知っていたのだ。

その日から彼との親交が始まり、いろいろな面でお世話になりました。

ちょうど高校受験の話が始まるころで、彼は目黒高校（現目黒学院高校）を志望していた。彼とはもう少し一緒にいたかったので、私も一緒に受験することにした。

しかし心配の種が一つ。成績が彼の方が上だったので「私は合格できないのでは」と。合格の知らせには感激し涙が出た。

2年生になって彼と同じクラスになり、もう一人小沢秀彦君という友ができた。3人はいつも一緒に行動をしていた。小沢君は空手部で、スポーツ刈りの今でいうイケメンタイプ。社会人になってからは、リーゼントでそれはそれはムービースターのようでした。安田君も当時はやっていた七三分のアイビールック、田舎者の私は丸坊主頭で、どう見ても不細工面。でも三人三様で楽しく高校生活を謳歌していました。当時ボウリングが流行り、三人でユニフォーム マイボール マイバッグ マイシューズを揃え、ボウリング場を渡り歩いていました。

忘れられない思い出があります。高3の北海道修学旅行。たしか夜行で釧路までの鉄道移動中、私と安田君の相席の仲間が少し大声をあげ、それに乗じて周りの仲間がはしゃいでしまった。

すぐさま相撲部顧問の〇〇先生が飛んできて、私と安田君を通路に立たせ「監督不行き届き 歯をくいしばれ」と一括され、往復鉄拳を頂いた。

卒業式間近に小沢君が緊急入院し、卒業式を欠席することになり、安田君と二人で病院まで行き、卒業証書とアルバムを届け写真を撮りました。

彼ら二人のおかげで充実した高校生活を送ることができ、感謝いたします。

私は父親に「余生は福島で」とせがまれ、大学を卒業と同時に単身いわきに戻り、両親を迎える準備をしたが、父親は帰れませんでした。

東日本大震災発生後、東京の妹宅に一時避難していたが、安田君は私どもを気遣い訪ねてきて、激励していただいた。ありがとうございました。

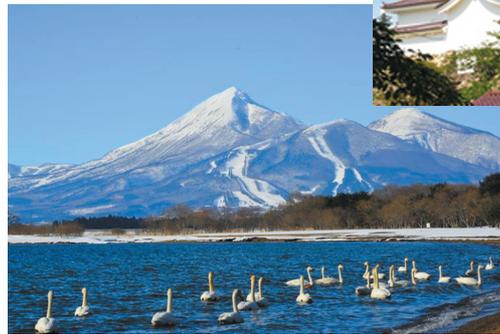
一昨年安田君から「学園の同窓会事務局に林の住所登録しておいたから」と連絡があり、間もなく「桐」が送られてきました。同窓会の記事が載っており、安田君と参加しようと決め、高速バスの手配も済ませ準備万端でしたが、台風の襲来で帰りのバスが不確定とのことで、出席できませんでした。54年ぶりの学園訪問を楽しみにしていただいただけに残念でした。次回を楽しみにしております。

在校生の諸君 生涯の友を是非見つけてください

現在、一女二男に恵まれ長女は近隣に、男子二人は会津若松と郡山で暮らしており、私も昨年3月で第二の職を離れ、現在は夫婦二人で呑気に老後を楽しんでおります。昨年の退職を機に、長年の夢だった四国八十八カ所お遍路を、二人で自家用車にて参拝し、高野山で満願を達成してきました。

私は歳を重ねるほどに病に見舞われ、その都度、妻の献身的な看護を受け、妻には感謝しております。

最後に、福島県は東日本大震災で甚大な被害を被りましたが、皆様方の激励、援助で少しずつではありますが復興しつつあります。猪苗代湖、磐梯山、野口記念館、会津鶴ヶ城、いわきララミュウ、アクアマリンふくしま、飯坂温泉、スキー場等々、魅力満載です。ぜひご来県ください。



磐梯山・猪苗代湖



会津鶴ヶ城

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

岡田	博	(父)	昭和58年3月卒
	悠	佑(子息)	令和2年3月卒
大久保	勝	啓(父)	昭和60年3月卒
	七	海(息女)	令和2年3月卒

母校クラブ紹介

女子バレーボール部発足



目黒学院高等学校女子バレーボール部

監督 おぐま いずみ
尾 熊 泉

平成29年度創部以来、4年目となる女子バレーボール部は、周りから応援されるチームを目指して、生徒と一緒にこれまで築きあげてきました。一つ一つが伝統になることを意識しながら、女子バレーボール部の看板を背負って学校生活を過ごしています。

チーム結成前は、男子バレーボール部のボール拾いをしていた3年生1人と2年生（初心者を含む）2人が部員でした。そこに次年度から女子バレーボール部の結成を聞いて、10月に1人、12月末にまた1人と入部を決めてくれた生徒のおかげで、5人からのスタートになりました。しかし、バレーボールは6人いないと試合になりません。4月から試合に出場するためにも、新入生の入部が絶対に必要でした。



そんな中、3月末のことです。入学が決まっていた新入生3名から、「女子バレーボール部の練習に参加したい」という電話が入りました。それから中学生3名は3月から練習に参加し、4月からは新入生4人の入部により計9名で女子バレーボール部が発足しました。

部員一人一人が、ひたむきに努力すること、チームのため、仲間のために、自分ができることは何か。ゼロからのチーム作りが始まりました。

まずは、部員が少ないので、ケガをしたらチームに迷惑がかかり試合に出場できなくなることを第一に考え、行動して来ました。

4月から練習を本格的に始めましたが、6月までの大会は結果を残すことが全くできませんでした。練習試合は新参者でしたので、他校さんと練習試合を組むことに苦労しました。練習試合先でも一勝する難しさも経験しま

した。中々、勝つことが出来ない日々があり、試合で負け癖がつかないようにするために、負けないチーム作りが必要だと考えました。それには、変化に対応できる応用力と修正能力があるチームが重要だと思い、練習方法を変え、勝つためには、どうすればいいかミーティングを重ねていきました。その一つにビーチバレーを取り入れ、砂浜の上での練習は下半身強化が有効でした。そして、インドア競技では想像ができなかった、幅広い視野を身に着けることができました。

また、練習だけではなく生活態度の見直しをし、生徒自ら部則をつくり、やらされるバレーボールではなく、自主自律につなげようという考え方のもと取り組みを行い、学習や挨拶、顔つき仕草につながっていきました。こうして、様々な試合状況に順応できるようになり、競技成績も伸びていきました。

女子バレーボールの高体連加盟校数は350校あまりになりますが、日々の成果が実を結び、創部2年目には、東京都でベスト64に入ることができました。自分の役割が何かを自覚を持たせることで、チームの結束力が生まれて、より高い目標をもてる自信にもつながります。そして、父母会から「挑戦」という横断幕を贈呈して頂き、感謝の心でいっぱいです。今ある環境も競技を続けられることも、大会に出場できることも決して当たり前ではない。親、家族、友人、応援して下さる方々に支えられているのだから感謝しなければいけないと、選手たちに話しています。

こうして、女子バレーボール部は創部3年目にして東京都ベスト48位、平成31年2月に伝統ある東京如月杯にて、総合力で挑んで見事、優勝することができました。

しかし、まだまだ上には上がいます。チームの大きな目標は関東大会出場です。そのためには、みんなが別々の方向を向いていると、当然ながら結果は出ません。変化に対応しながら、目標に向かっていくことが大切です。常に仲間のことを思い、いたわりの心を持つ選手を育て、チーム全体が陽の雰囲気包まれていく部にしていきたいと思います。今後とも女子バレーボールの応援のほど、宜しくお願い致します。



2019年度決算報告

2019年4月 1日から
2020年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)		
科 目	予算額	決算額	摘要	
同窓会費	2,718,900	2,718,900	756名分	
入会金	518,000	518,000	259名分	
賛助会費	500,000	528,000	169名分	
総会費	0	0		
寄付金	0	15,000	逝去された本会役員ご遺族から	
雑収入	21,000	41,025	会報掲載広告代及び預金利息	
当期収入合計	3,757,900	3,820,925		
前年度繰越金	7,844,269	7,844,269		
収入合計	11,602,169	11,665,194		

(支出の部)		(単位：円)		
科 目	予算額	決算額	摘要	
総会費	0	0		
行事費	0	0		
通信費	0	0		
雑費	0	0		
会議費	55,000	28,718		
役員会費	30,000	15,767	出席者お茶代等	
委員会費	5,000	0		
通信費	20,000	12,951	開催通知郵便料等	
補助費	380,000	310,000		
部・同好会補助	350,000	310,000	在校生部活動補助	
文化祭補助	30,000	0		
事務費	320,000	312,631		
人件費	180,000	157,000	役員費	
事務消耗品費	15,000	13,740	プリンタインク代等	
交際費	100,000	112,778	慶弔費、謝礼、会報取材費	
雑費	25,000	29,113	賛助会費等振込手数料	
会報費	2,046,000	1,898,177		
会報『桐』印刷費	375,000	368,064	14,200部	
振込用紙及び印刷費	80,000	74,984		
宛名用紙及び印刷費	170,000	119,975		
封筒・封入作業費	220,000	209,956		
発送費	1,200,000	1,124,766	郵便料81円×13,886名	
雑費	1,000	432	振込手数料	
記念品	500,000	305,730	卒業生記念品代193名分	
奨学金	400,000	400,000	在校生奨学金	
予備費	100,000	0		
当期支出合計	3,801,000	3,255,256		
次年度繰越金	7,801,169	8,409,938		
支出合計	11,602,169	11,665,194		

【特別積立金】		(単位：円)	
保管種別	本年度末	前年度末	
定期預金	7,000,000	7,000,000	

2019年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で4万円の支出超過を予定して開始されました。収入は予算に対して6万円増加し、支出は予算に沿って執行しつつ極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して54万円の減少となりました。

この結果、単年度収支で56万円の収入超過となり、次年度への繰越金は84万円となりました。

1. 収入の部

同窓会費、入会金は予算どおりの収受となり、賛助会費は予算比で2万円の増加、雑収入も2万円の増加となりました。

この結果、収入合計では、予算に対して約6万円の増加となりました。

2. 支出の部

予算計上したすべての経常支出大科目において節減努力した結果、予算対比で54万円の減少となりました。

在校生に対する奨学金支出は、予算どおり40万円を執行しました。

2020年度予算書

2020年4月 1日から
2021年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)		
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	
同窓会費	2,884,500	2,718,900	165,600	
入会金	764,000	518,000	246,000	
賛助会費	500,000	500,000	0	
総会費	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
雑収入	20,000	21,000	△ 1,000	
当期収入合計	4,168,500	3,757,900	410,600	
前年度繰越金	8,409,938	7,844,269	565,669	
収入合計	12,578,438	11,602,169	976,269	

(支出の部)		(単位：円)		
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	
総会費	0	0	0	
行事費	0	0	0	
通信費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
会議費	55,000	55,000	0	
役員会費	30,000	30,000	0	
委員会費	5,000	5,000	0	
通信費	20,000	20,000	0	
補助費	370,000	380,000	△ 10,000	
部・同好会補助	340,000	350,000	△ 10,000	
文化祭補助	30,000	30,000	0	
事務費	340,000	320,000	20,000	
人件費	180,000	180,000	0	
事務消耗品費	25,000	15,000	10,000	
交際費	100,000	100,000	0	
雑費	35,000	25,000	10,000	
会報費	2,006,000	2,046,000	△ 40,000	
会報『桐』印刷費	375,000	375,000	0	
振込用紙及び印刷費	80,000	80,000	0	
宛名用紙及び印刷費	130,000	170,000	△ 40,000	
封筒・封入作業費	220,000	220,000	0	
発送費	1,200,000	1,200,000	0	
雑費	1,000	1,000	0	
記念品	500,000	500,000	0	
奨学金	400,000	400,000	0	
予備費	100,000	100,000	0	
当期支出合計	3,771,000	3,801,000	△ 30,000	
次年度繰越金	8,807,438	7,801,169	1,006,269	
支出合計	12,578,438	11,602,169	976,269	

〔会計監査報告〕

私たちは、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

2020年7月15日

会計監査 加藤 明宏

2020年度予算について

2020年度収支予算は、2020年度の事業計画と2019年度の収支実績とを勘案して編成しました。

1. 収入の部

同窓会費は802名、入会金は382名を収納予定人員と積算し、また賛助会費は前年の実績を勘案して延べ500口を収納予定として予算計上しました。

本年度は、総会・懇親会が開催されないことに伴い、総会費については、予算未計上となりました。

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①同窓会だより「桐」の発行、②在校生の部・同好会に対する補助、③卒業記念品の贈呈、④在校生に対する奨学金支出等が主なものです。

これ以外の経常的運営費については、次回の総会・懇親会開催に備えて極力抑制した予算を編成しました。

この結果、次年度への繰越金は880万円を予定し、単年度収支では39万円の収入超過予算となりました。

同窓会賛助会費 納入者のご芳名

令和元年度分の賛助会費として、本年3月末までに納入のあった方は、下記の169名の方々です。ここに、謹んでご報告申し上げます。

★印は新規納入者

ア 秋本 康夫 浅野 進 安達 富夫 阿部 容大 綾部 渡守 ★荒井 荒川 有我 晴紀	ウ 内村 正一 梅木 英雄 梅沢 賢治 梅澤 敏明 梅村 昭一	カ★ 神山 快三 神谷 守 蕪木 敏夫 川瀬 年茂	シ 宍戸 優仁 ★篠崎 忠男 清水 健 志村 教俊 蕭 欣志 新地 邦和	ツ★ 角田 公夫 ト 東郷 東彦 東条 論二郎 富樫 良一	ヒ 廣瀬 晋 広瀬 和夫 樋渡 紀之	モ★ 望月 忠一 森 一平	イ 飯田 論史 ★飯田 鎮夫 五十嵐 正宏 石毛 一寛 石綿 健二 石渡 博巳 ★伊多波 博志 市川 康憲 ★伊藤 稜 稲葉 明夫 ★稲葉 孝司 ★稲葉 一豪 井上 悠 猪瀬 昭男 今井 勇次 岩井 宏樹 岩間 高志	エ★ 遠藤 力 遠藤 尚之	キ★ 北嶋 瞳央 北根 益巳 木村 義男	ス 須賀 雅治 須賀 義則 杉本 法男 ★杉本 裕紀 鈴木 邦 鈴木 茂樹 ★鈴木 隆一郎	ナ 永井 賢一 ★中川 恵太 ★中川 智貴 永野 裕人 永野 敬大 長原 一夫 中村 重和	フ 福田 和泰 藤井 茂夫 兼 英夫 藤野 保 藤森 琢磨	ホ 洞口 芳彦 堀江 勉 堀山 勉	マ 前川 雄一 前嶋 喜義 松崎 敦 松本 誠治 松本 剛直 丸山 元吉	ワ 和久井 和之 渡辺 幸一 ★綿野 雄介	ヨ★ 吉井 汰一 吉村 多賀志	計169名 (内新規納入者31名)			
イ 飯田 論史 ★飯田 鎮夫 五十嵐 正宏 石毛 一寛 石綿 健二 石渡 博巳 ★伊多波 博志 市川 康憲 ★伊藤 稜 稲葉 明夫 ★稲葉 孝司 ★稲葉 一豪 井上 悠 猪瀬 昭男 今井 勇次 岩井 宏樹 岩間 高志	オ★ 大石 龍輝 大岡 進一 大河原 行雄 ★大越 心司 ★大谷 英之 太田 雄貴 大場 敬介 ★大場 陽生 大山 靖郎 ★奥田 晃 奥野 和夫 奥山 純夫 尾崎 雅彦 ★小田 英人 小野寺 正志	ク 楠山 信之 ★国馬 康夫 栗田 幸之助 桑原 徳郎	ソ 草 敬三 外山 昇 染谷 孝雄	ニ 西村 俊祐 ネ 根城 裕典	ノ 野寺 伸一 ★野中 博幸	ハ 橋本 真尚 長谷川 恵子 幡野 明弘 林 賢一	ヒ 日高 粒二 平井 洋 平野 啓二 廣木 正和	コ 小岩井 晃 河野 大樹 小嶋 靖夫 小清水 和敏 小村 良雄	タ 高野 昌弘 高畑 哲男 高橋 弘樹 高橋 弘樹 高柳 進 高柳 勇 滝口 敬 武田 伸一 田中 秀紀 ★田中 辰雄 ★谷上	チ 須賀 雅治 須賀 義則 杉本 法男 ★杉本 裕紀 鈴木 邦 鈴木 茂樹 ★鈴木 隆一郎	リ 須賀 雅治 須賀 義則 杉本 法男 ★杉本 裕紀 鈴木 邦 鈴木 茂樹 ★鈴木 隆一郎	ニ 西村 俊祐 ネ 根城 裕典	ノ 野寺 伸一 ★野中 博幸	ハ 橋本 真尚 長谷川 恵子 幡野 明弘 林 賢一	ヒ 日高 粒二 平井 洋 平野 啓二 廣木 正和	ホ 洞口 芳彦 堀江 勉 堀山 勉	マ 前川 雄一 前嶋 喜義 松崎 敦 松本 誠治 松本 剛直 丸山 元吉	ミ 三浦 宏一郎 三神 和夫 三澤 宏延 水谷 清 宮田 仁 宮田 士	ム 村石 圭樹 村木 開	計169名 (内新規納入者31名)
ウ★ 鶴澤 知之 ★鶴澤 貴之 宇田川 彰	カ 鹿島 節夫 ★加島 広 加藤 明宏 加藤 信夫 金井 信夫	キ★ 北嶋 瞳央 北根 益巳 木村 義男	シ 宍戸 優仁 ★篠崎 忠男 清水 健 志村 教俊 蕭 欣志 新地 邦和	ツ★ 角田 公夫 ト 東郷 東彦 東条 論二郎 富樫 良一	ヒ 廣瀬 晋 広瀬 和夫 樋渡 紀之	モ★ 望月 忠一 森 一平	イ 飯田 論史 ★飯田 鎮夫 五十嵐 正宏 石毛 一寛 石綿 健二 石渡 博巳 ★伊多波 博志 市川 康憲 ★伊藤 稜 稲葉 明夫 ★稲葉 孝司 ★稲葉 一豪 井上 悠 猪瀬 昭男 今井 勇次 岩井 宏樹 岩間 高志	エ★ 遠藤 力 遠藤 尚之	キ★ 北嶋 瞳央 北根 益巳 木村 義男	ス 須賀 雅治 須賀 義則 杉本 法男 ★杉本 裕紀 鈴木 邦 鈴木 茂樹 ★鈴木 隆一郎	ナ 永井 賢一 ★中川 恵太 ★中川 智貴 永野 裕人 永野 敬大 長原 一夫 中村 重和	フ 福田 和泰 藤井 茂夫 兼 英夫 藤野 保 藤森 琢磨	ホ 洞口 芳彦 堀江 勉 堀山 勉	マ 前川 雄一 前嶋 喜義 松崎 敦 松本 誠治 松本 剛直 丸山 元吉	ワ 和久井 和之 渡辺 幸一 ★綿野 雄介	ヨ★ 吉井 汰一 吉村 多賀志	計169名 (内新規納入者31名)			

賛助会費の納入をよろしく
お願いいたします！
賛助会費：一口1,000円

賛助会費は一口1,000円で、口数は任意となっております。お志のある方は、複数口のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

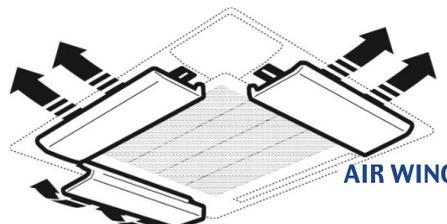
(注)

1. 納入にあたっては、同封の郵便局用「払込取扱票」をご使用のうえ、お振込みください。
手数料負担は有りません。
 2. 以下の銀行口座へのお振込もご利用出来ます。
三井住友銀行 多摩支店
普通預金 6786789
口座名義 目黒学院高等学校同窓会
- ・お振込みの際には、同封「払込取扱票」の氏名後に記載の会員番号を、振込人名の前に入れて下さい。
 - ・振込手数料は、ご負担下さい。

DAIAN SERVICE INC.

OnlyOneをモットーに

空気をデザインする企業を目指して



お客様の「直接風が当たって不快！」という声より着想したエアコンの風よけは、おかげさまでシリーズ累計出荷台数300万台を超える業界No.1のロングセラーとなりました。

以来、既存のものに機能を追加することで付加価値を高める“あったらいい商品”を自社開発・販売し、空調メーカーや印刷会社、日用品メーカー等大手企業との共同開発品をリリースしてまいりました。

この夏には、長年培ってきた空調関連商材へのノウハウを元に、ウイルス対策、空気環境改善の一助として、ワンタッチで“貼るだけ”のエアコン吸気口用“後付けエアコンフィルター”を開発、販売開始しております。

「空気をコントロールする」から「空気質をコントロールする」へ。

これからもOnlyOne、新しい価値の創造にチャレンジしてまいります。

株式会社ダイアン・サービス
〒141-0031 東京都品川区西五反田5-23-3 ダイアンビル 顧問：市川康憲
TEL.03-5496-4811 FAX. 03-5496-1797 (昭和42年卒業)